



元祖総合格闘家&目指せ! 総合武術家

# 平 直行

武術は極端に言うと人殺し。  
“強さの上の卑怯さ”それを極めたのが武術。  
でも卑怯なだけで弱い人が武術は使えない

聞き手/山口日昇

修斗、シュートボクシング、空手、グレイシー柔術での修行、素手のバーリ・トゥード、はたまたプロレスまで。現在の総合格闘技が勃興する以前から、あらゆる格闘技や武道、そして時代の修羅場をくぐり抜け、いま柳生新眼流という武術の門を叩いている平直行。その平直行だからこそ語れる“格闘技”と“武術”と“達人”!

武術はもともと何をやっていったか  
とどうと、戦(いくわ)は。戦(いくわ)にたいを  
最初に攻めるのかとどうと、敵のお墓です

山口 まずいきなりですけど、平さんの考える「達人」とはなんですか。

平 「達した人」じゃないですか!

山口 読んで字の如く!

平 そのまんまですよ。だからビル・ゲイツは達人ですし、ノーベル賞を取った方々も達人です。昔は日本の根幹産業、主要産業が武術だったから、武術家に達人が多かったんであって。現代における達人というのは達した人すべてを指してもいいんじゃないですか。

山口 平さんから見て、その達した人ってというのは結構いますか?

平 います。格闘技の世界は達人が多いと思いますよ。やってみるんだから! やらないと達しませんよ。

山口 やらないと達さない! 『巖流島』両国大会に60歳の合気の達人という触れ込みで渡邊剛さんという方が出ましたけど、15秒でKOされるという残念な結果に終わってしまいました。あの現象を平さん的にはどう見ます?

平 達人っていうのは達するんだから、デビュー戦で達してるわけねえだろ! と思います。

山口 最初からは達せない! なるほど。

平 僕らは格闘技を実際にやって、ジムもやっています。指導もやっています。ジムで1回も試合したことがない人の話を誰が聞きますか? 練習生の話を聞きますか? 試合に1回も出てない練習生が「俺は勝てる」なんて言ったら、「ちょっとスパarringしてみる?」とボコボコになって終わりですよ。普通はそういう子は変な子だから、言動的にもおかしいのでジムにもいられないです。それがなぜ武術の世界ではまかり通るのか。本来はもっと激しいことやってるのが武術なのに。

山口 武術は激しいもの。

平 僕も「実戦」という概念が大きな課題になった90年代を過ごした。総合格闘技が勃興する以前からやってきたかわかるんだけど、どれもルールがあるんだし、そのルールでの闘い方があるわけですよ。じゃあ武術はもともと何をやってたかというところ、戦(いくさ)です。戦のときに、いまの人はまったく想像できないでしょうけども、どこを最初に攻めるのかというところ、敵のお墓ですよ。

山口 最初に攻めるのがお墓!

平 お墓。要するに、根絶やしにするぞ、と。それで決意を示す。小さい子でも全部殺すんですよ。戦をやるときはなんでもかというところ、次にその子たちに狙われるから。

山口 仇討ちにあうわけですよ、根絶やしにしておかな